

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成31年3月分）

【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

【製造業】受注の鈍化等の懸念もある

○製造業は、主要産業の鉱工業生産指数では、化学工業が大幅に上昇したものの、電気機械やはん用機械等、多くの産業で低下が目立った。ヒアリングでは、機械関連において、中国市場の減退に伴う、受注量の減少等が継続しており、また、ここに来て自動車関連についても、外部環境の不透明さによる影響が顕在化する恐れも見られる。

【地場産業】厳しい状況が続いている

○地場産業は、鉱工業生産指数で窯業・土石で前月比上昇が見られたが、繊維工業や木材・木工品等、多くの産業で低下となった。原材料の高騰や人手不足等、依然として厳しい状況にある。

【設備投資】投資姿勢が二極化している

○設備投資は、ヒアリングでは、積極的な姿勢の企業もあるが、貿易摩擦をはじめとする海外経済の減速や、消費増税等、国内外の不透明要因も多く、工作機械受注額については、国内、海外向けとも、前月に引き続き前年を下回った。

【個人消費】ドラッグストアが牽引している

○個人消費は、小売店の販売額について、年間を通して最低水準となったものの、昨年に引き続きドラッグストアが牽引し、全体としては前年同月を上回った。また、各小売店において消費増税やキャッシュレスへの対応も見られる。

【観光】観光客数、宿泊客数ともに前年同月を上回った

○観光は、1ヶ月を通して天候に恵まれるとともに、春節の影響もあり、観光客数、宿泊客数は前年を上回った。

【資金繰り】資金繰り環境に変化はないが、外部要因による影響が懸念される

○企業の資金繰りは、借入環境に変化は見られない。一方で、金融機関としては、米中貿易摩擦等、様々な外部要因による景気後退への局面を懸念している。

【雇用】人手不足の状態が慢性化している

○雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりし、県内中小企業にとっては、依然として人手不足が慢性化した状態であるものの、中には、受注の落ち着きにより人手の不足感が和らいでいる企業もある。